

[研究論文]

家庭教育支援における保護者向け学習プログラムの分析
—教師による学校・家庭連携推進の視点から—

An analysis of learning programs for parents in education at home
-Focusing on the partnership between teachers and parents-

藤田 尋子
Hiroko FUJITA

小泉 令三
Reizo KOIZUMI

福岡教育大学

福岡教育大学教職実践講座

本研究は、文部科学省の家庭教育支援事業の一環として各自治体が作成した保護者向け学習プログラムを概観し、学校が学習プログラムを実施するという観点から整理すると共に、今後の課題を明らかにすることを目的とした。家庭教育に関する文部科学省のホームページに掲載されている39都道府県市の学習プログラム一覧の中から参加型学習プログラムを抽出した結果、25個が収集された。収集された学習プログラムを、対象、内容、主な資料、主な活用場所、実施報告を中心に整理・検討した結果、子どもの発達段階に応じて子育ての悩みや問題点に関する内容になっていること、主な資料として手引きが掲載されており、その手引きに沿って学習プログラムが進行できるよう想定されていること等が明らかになった。一方、学校での実施を想定すると、学習プログラムの構造が明確であるとは言えず、学習プログラムを実施した結果や効果等の科学的根拠が明示されていないこと、さらに学校での実施に適した教師用手引きが不足していることが明らかになった。

キーワード：家庭教育，学校・家庭連携，保護者向け学習プログラム，保護者支援

1 問題と目的

(1) 子どもの教育における学校・家庭・地域社会の連携

文部科学省は、学校・家庭・地域社会の連携に関して、1996（平成8）年7月の審議会答申等「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」で、第1は、学校・家庭・地域社会での教育が十分に連携し、相互補完しつつ、一体となって営まれることが重要だと述べている。教育は、家庭と学校と地域社会が連携しておこなわれるものであり、これら3つのどの部分の教育に焦点を当てて考える場合でも、他の2つの連携を抜きにして論じることはできない（遠藤，1998）。

(2) 家庭教育と家庭教育支援

家庭教育とは、主として親が家庭内において、その子どもが社会で生活していくのに必要な生活習慣などを教育することを指す（長谷川，2008）。し

かし、近年の都市化、核家族化、少子化、地域における地縁的なつながりの希薄化など、家庭や家族を取り巻く社会状況の変化の中で、家庭の教育力の低下が指摘されている（文部科学省，2005）。また、家庭教育という基本的な教育行為が行われない場合の理由の一つとして工藤（2010）は、親の教育力不足を挙げており、核家族化の進行の中、日々の暮らしにおいて親としての自覚や親としての成長を促す術を学ぶ機会が極端に減少していると指摘している。

文部科学省は、2000（平成12）年「家庭の教育力の充実等のための社会教育行政の体制整備について（報告）」の中で、家庭の教育力の充実において果たされる行政の役割は、「子どもの健全な成長が図られるよう、様々な手法により支援していくことである」としており、その具体的手法として、「親が家庭を見つめ直す契機となるような学習機会の提供」などが考えられると述べており、家庭の教育力充実を目指した支援のひとつとして親学習

の提供を挙げている。

(3) 親を対象とした学習プログラム

国内で実施されている親対象の学習プログラムとして知られているものに「トリプルP」や「親業」等がある。「トリプルP」とは、加藤・柳川(2010)によると、オーストラリア・クイーンズランド大学の教授で家族支援センター所長である Matthew R. Sanders 氏によって 20 年前に創始されたものであり、日本では、前向き子育てプログラムとも言われている。「前向き子育てプログラム(Positive Parenting Program)」の頭文字を取り、トリプルPと呼ばれている。トリプルPは、5段階に分かれたプログラムで構成されており、その中のグループプログラムは、前半の4週間は週1回2時間のグループセッション、後半は週1回20分程度の電話による個別カウンセリングの合計8週間で構成されている。トリプルPには、前向き子育て5原則がある(①安全で活動的な環境づくり、②積極的に学べる環境づくり、③一貫した子育て、④現実的な期待、⑤親としての自分をケアする)。この5原則が基礎となり、発展した子育てに用いる17の技術(子どもの発達を促す10の技術、問題行動に対応するための7つの技法)をプログラムを通して学んでいく。

「親業」とは、正式名称は Parent Effectiveness Training(P.E.T)「親業訓練講座」といい、アメリカの臨床心理学者 Thomas Gordon 博士が開発した、親としての役割を効果的に果たすための訓練である。基本的な親業訓練講座は、1週3時間×8回=24時間である。親業訓練には①聞くこと(子どもの心を開かせ、本当の気持ちを吐き出させるような「能動的な聞き方」、②話すこと(親が子どもに自分の気持ちや考えを率直に伝える)、③対立を解く(親子が共に問題を解決していく)から成る3つの柱と呼ばれている基本的方法があり(久保, 2009)、ロールプレイなどを交えて親子のコミュニケーションのとり方を学んでいく。しかし、いずれのプログラムも基本的に学校が保護者へ提供することは想定されていない。

(4) 自治体が作成した保護者向け学習プログラム

自治体では、文部科学省の家庭教育支援事業の一環として、親を対象とした学習プログラムを作成しており、一番作成年度が早いのは、大阪府の平成17年度学習プログラムである。親が子育てに関するさまざまなテーマについて参加者同士で学び合いながら、家庭教育の充実をはかることを目的としている。対象は、乳幼児、就学前、小学生、中

高生の子を持つ親、さらには親になる準備段階である中高生などである。これらの学習プログラムが活用される主な場面として、就学時健診や入学説明会、公民館や子育てサークルで実施される講座、学校で開催される保護者会など保護者が集まる場所が想定されている。

(5) 本研究の目的

これからの家庭教育支援のあり方として、家庭教育力の向上を目的とした親子の学びや親育ちの学習機会を学校が提供することは、子どもの教育における学校・家庭の連携推進にもつながる。学校が持っている強みは、保護者と子どもの両方に関わることができるという点である。学校はすべての児童生徒との関わりを持つことができ、児童生徒を通して保護者へのアプローチが可能である。学校が親対象に学習プログラムを実施することで、学校と家庭のつながり・連携の強化が期待される。

ここで、親への学習提供の際に利用する学習プログラムとして、自治体が作成した保護者向け学習プログラムが考えられる。家庭教育に関する文部科学省のホームページ「子供たちの未来をはぐくむ家庭教育」には、「家庭教育に関する学習プログラム一覧」が掲載されている。しかし、一覧には、「自治体名」、学習プログラムの「名称」、「内容」、「作成年度」、学習プログラムが入手できる各自自治体の URL が掲載されているのみで、学習プログラムを実際に利用する際、適切な学習プログラム選択に必要な「対象」や「テーマ」などの情報が十分ではない。

そこで本研究では、「家庭教育に関する学習プログラム一覧」を元に、各学習プログラムを概観し、学校が保護者を対象に学習プログラムを実施するという観点から整理し、適切な学習プログラムが入手できるよう、学習プログラムの傾向を分析することを目的とする。

2 方法

(1) 保護者向け学習プログラムの収集

文部科学省が運営しているホームページ「子供たちの未来をはぐくむ家庭教育」内にある「家庭教育に関する学習プログラム一覧」(<http://katei.mext.go.jp/contents4/4-2.html>)を参照し、その中でも参加体験型の親学習を目指したプログラムであることを基準に抽出した結果、39都道府県市の学習プログラム中25個が収集された(2015年10月30日時点)。

ここで参加体験型の親学習とは、子育てについての身近なエピソードを題材に、保護者同士や様々な年代の人との対話や交流を通して自分自身の考え方に気づき、子育ての基準となる親としての心構えや子供と接するスキルなどを学び合う学習（大阪府教育委員会, 2015）のことである。

(2) 保護者向け学習プログラムの整理

学習プログラムを①自治体名、②学習プログラム名、③内容、④作成年度、⑤対象/テーマ数・合計、⑥主な資料（学習プログラムに関する資料）/ページ数、⑦主な活用場所、⑧実施報告、の7項目で整理した。⑧実施報告については、学習プログラムに関するリーフレットや冊子あるいはホームページなどで、実施事例、活動状況、参加者の声など、実施報告が記載されているかどうかを有無の基準とし、その有無により、「○」、「-」を記した。

3 結果と考察

(1) 学習プログラムの特徴

学習プログラムの特徴について対象、内容、主な資料、主な活用場所、実施報告を中心に述べる（詳しくは表を参照）。

対象別に見ると、乳幼児を持つ親用 29, 小学生を持つ親用 27, 親となるための準備期用（小中高生）18, 中高生を持つ親用 16, 子育て支援者用（祖父母や家族など）11, 思春期の子どもを持つ親用 8, 親子用 3, そして、小学校へ入学する直前の子どもをもつ親用, 地域住民用, 妊娠期用は各2であった（延べ数）。学習プログラムの対象は、子育て中の親だけでなく、将来親となる世代（中高生）にも広がっており、子どもたちへの予防的教育も視野に入れられている。また、乳幼児を持つ親を対象としたものが一番多い背景として、文部科学省（2005）も指摘しているように、少子化が進む中で、若い世代の多くは、幼い子と接する機会が少ないままに大人になっているため、乳幼児とはどういうものか、親としてどのように接したらよいか分からないなど、育児不安を持つ親が増えているためと考えられる。

内容を見てみると、親対象の学習プログラムでは、子育てに必要な知識・スキル、生活リズム、規範意識、ほめ方・叱り方など親子の関わり方などに関する内容が多く取り上げられており、思春期の子どもを持つ親対象の学習プログラムでは、子どもの交友、子どもの自立、男女交際など思春期の子ども理解に関する内容はもちろん、スマートフォ

ン・ネット社会など現代社会が直面している課題に関するものも見られた。将来親となる中高生対象のプログラムでは、自立、親の立場の理解、家事や育児への考え方など、親になったときに必要なことについて取り上げられていた。子育て支援者対象（祖父母・家族など）では、子育て中の親への接し方や子育てアドバイス、孫への接し方など、子育て支援者としての役割に関する内容がみられた。

また、各学習プログラムは、子どもの発達段階に応じた子育てに関するエピソードについて、参加者がそれぞれどう考えるのか、どう行動するか等お互いに話し合ったり、ロールプレイ（役割演技）を通して理解を深めるワークとなっている。

主な資料については、ほとんどの学習プログラムに、手引きが用意されている。手引きには、学習プログラムの「ねらい」、「実施のポイント」、「事前準備」、「導入」、「展開」、「まとめ」までの時間配分や活動内容などがワークごとに記してある。参加型学習プログラムは、ファシリテーターと呼ばれる学習活動を促進させる人が進行していくよう作られており、その役割は、学習者みんなが安心して学習に取り組めるよう工夫したり、学習効果が高まるようサポートしたりすることである（岡山県教育委員会, 2010）。そして、学習プログラムを実施する際、ファシリテーターは、手引きを参考にしながら進行できるようになっている。さらに、主な資料の中には手引きの他に、各テーマについて、参加者がより理解を深めるために役立つ資料や、学習者の気持ちをほぐすアイスブレイキングのワーク集など、学習プログラムの実施において参考になる資料が掲載されている。

学習プログラムの主な活用場所として、保健福祉関係機関で実施される乳幼児・就学時健診や、保育園・幼稚園・学校で行われる保護者会や学級懇談会等、そして地域施設で行われている子育てサークルでの学習会等、保護者が集まる場が想定されている。

各自治体の学習プログラムに関する実施報告については、その有無により判定した結果、25個のプログラムの内、有「○」が10であった。実施報告の中には、実施日時や開催場所、参加人数、使用した学習プログラム、参加者の声などが報告されている。しかし、学習プログラム実施後の効果を数値化するなどした効果測定の実施有無あるいは結果が公開されているものは見当たらず、さらに学習プログラムの妥当性・信頼性が確認されているものはなかった。

(2) 学習プログラムの学校での使用に関して

学習プログラムの学校での実施について①学習プログラムの構成、②学習プログラムのエビデンス、③学習プログラムの手引き、の3つの観点から述べる。

① 学習プログラムの構成

親を対象とした学習プログラムの場合、多くが子どもの年齢によって該当する区分の学習プログラムを選択できるような構成になっている。学習プログラムを実施する際に重要となるのは対象に合った適切な学習プログラムの選択である。学校で実施する際、対象である親にとって何が必要なのか、学ぶべきスキルは何なのか、あるいは参加者のニーズは何なのか等、テーマや内容によって、学習プログラム選択をする必要がある。そのためには、学習プログラムを年齢対象ごとに区切るだけでなく、学習のねらいや学習内容をより明確にした上で構造化する必要がある。例えば、宮崎県(2013)の「みやざき家庭教育サポートプログラム」では、年齢対象ごとに学習プログラムが区分されているだけでなく、テーマが「親子のコミュニケーション」、「家庭のしつけとルール」、「子どもの安全」、「子どもの個性と夢」、「地域とのかかわり」のように構造化されており、学習プログラムによって学ぶべきテーマが明らかとなっている。このように構造化が明確であると、学校で実施する際も、対象に合った適切な学習プログラム選択が容易になる。

② 学習プログラムのエビデンス

エビデンスとは、実践や政策決定の際に用いられる科学的根拠を表す言葉である(岩崎, 2010)。先に述べた、親を対象とした学習プログラム「トリプルP」は、実証研究が蓄積され、その有用性が確認されたエビデンスベースのプログラムであり(岩崎, 2010)、「親業」もまたその効果について調査研究がおこなわれている学習プログラムである(近藤, 1983)。しかし、いずれの学習プログラムも基本的に学校が保護者へ提供することを想定していない。一方、自治体が作成した学習プログラムは、活用場所の1つとして学校が想定されているが、効果が実証されているものは見当たらない。したがって今後、学校で学習プログラムを実施した結果や効果を科学的根拠のある統計データとして蓄積していくことで、限られた時間の中でより効果的な学習プログラムを選択する際の有効な判断材料となっていくことが期待される。

③ 学習プログラムの手引き

先にも述べたように、多くの学習プログラムには、主な資料として手引きが掲載されており、ファシリテーターは手引きを参考に進行するようになっている。また、自治体によっては、学習プログラムを活用して家庭教育支援を行うファシリテーターを養成する講座を実施している所もある。

学習プログラムをより効果的に実施するためには、ファシリテーターとしての訓練を受け、さらに経験を積むことが望ましいのであろうが、多忙を極めている教師にとって、それらは容易ではない。また、公立学校では、1つの学校での教師の任期は数年であることが多い。学習プログラムの実施は、教師の入れ替わりがある度に途切れるのではなく、継続的に行われることが求められる。そのためにも新たに着任した教師が実施方法の習得にあまり時間をかける必要なく、すぐに実施できるようになることも重要である。以上により、長期間の訓練を受けなくても、あるいは経験を多く積まなくても学習プログラムが実施できるよう、さらに学習プログラムの実施が継続して行われていくよう、より学校に適した手引きを作成する必要がある。

引用文献

- 遠藤克弥(1998) いま家庭教育を考える-親と子の生涯学習 川崎書店
- 長谷川万由美(1998) 親学習プログラムを通じた家庭教育支援 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要, 31, 309-316.
- 堀口美智子(2010) 前向き子育てプログラムの実践を通じた地域子育て支援の試み 淑徳短期大学研究紀要, 49, 83-98.
- 岩崎久美子(2010) 教育におけるエビデンスに基づく政策-新たな展開と課題, 日本評価研究, 10, 17-29.
- 加藤則子・柳川敏彦(2010) トリプルP-前向き子育て17の技術 診断と治療社
- 近藤千恵・柏木恵子・鈴木乙史・大野裕美(1983) 親役割の学習に関する追跡研究-親業訓練の効果測定 日本教育心理学会総会発表論文集 25, 758-759.
- 久保まゆみ(2009) 親行とは?—そして衝動性の高い子どもへの対応事例の紹介, 学校メンタルヘルス, 12(2), 32-33
- 工藤真由美(2010) 家庭教育の現状と課題 四條畷学園短期大学紀要, 43, 9-12.
- 宮崎県教育委員会(2013) みやざき家庭教育サポートプログラム
- 文部科学省(1996) 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)
- 文部科学省(2000) 家庭の教育力の充実等のための社会教育行政の体制整備について(報告)
- 文部科学省(2005) 平成17年度版文部科学白書
- 岡山県地域家庭教育推進委員会・岡山県教育委員会(2010) 親育ち応援学習プログラム
- 大阪府教育委員会(2015) 「親」をまなぶ「親」をつたえる

表 家庭教育支援における各自治体の保護者向け学習プログラム

自治体名	学習プログラム名	内容	作成年度	プログラム		主な資料/ページ数	主な活用場所	実施報告	実施報告内容			
				対象/テーマ数	合計							
1 青森県	「あおもり親業プログラム」	子どもの理解や親子の関わり方、子育てに必要なスキル等に関するプログラム	H24	①乳幼児を持つ親/4 ②小学生を持つ親/6	10	・手引(展開例)/10 ・プログラムシート(プログラムのアレ ンジや計画に使用)/1 ・各プログラム資料/10 ・アイズプレイクのいる/2 ・手法のいる/1 ・アンケート/1	・幼児検診 ・保育所・幼稚園・学校等での保護 者会など ・市町村教育委員会や家庭教育 支援団体などの講座・研修等	-				
						H25				①中・高校生を持つ親/9 ②将来、親となる中・高校生/2	11	・手引(展開例)/11 ・各プログラム資料/11 ・プログラムシート(プログラムのアレ ンジや計画に使用)/1種類 ・アイズプレイクのいる/2 ・手法のいる/1 ・アンケート/1
						H26				①子育て支援者/3 ②祖父母・家族/3	6	・手引(展開例)/6 ・プログラムシート(プログラムのアレ ンジや計画に使用)/1種類 ・アンケート/1
2 宮城県	H24年度 第一弾「親のみち しるべ」カンパキな親なんてい ない」	東日本大震災後における家 庭教育の支援を図るため、社 会的課題(孤独な子育て、虐 待や放任、しつけなど)の解決 のきっかけとなる親育ちのため のプログラム	H24	乳幼児期の子どもや小学校低・中 学年の子を持つ親	10	・ファンリテーター資料/20	保護者会、 入学説明会、PTA研修会、学級懇 談会、保護者会 親の学び塾、家庭教育支援サーク ル 乳幼児検診、就学時健診 ・公民館、社会教育施設、子育て 支援センターなど一家庭教育講座 ・10代のこども一学校教育の中で の特別活動や総合的な学習の時 間など	○	H24-26 実践報告 (リーフレット)			
						H25				思春期の子どもを持つ親/3 将来親になる10代の子どもたち/2	5	・ファンリテーター資料/16 ・差し込みシート(反抗期、思春期に 関する資料やファンリテーター進行 表など)/17
3 福島県	「親育ち応援学習プログラム」	就学直前の子どもをもつ保護 者向け資料	H26	①小学校へ入学する子どもを持つ 保護者	2	・ファンリテーター用資料/2	-	-				
						H17				※①～④の親 ①全保護者/3 ②乳幼児～小中学生/11 ③中学生～高校生/4 ④未来の親になる中高生/2	20	・利用マニュアル/20 ・アイズプレイク紹介/2 ・アクティビティ紹介/1
4 栃木県	平成17年度「親学習」プロ グラム H20年度「親学習」プロ グラム(アレンジ版)	子どもの発達段階にに応じた、 子育てに必要な知識やスキル についてのプログラム。	H20	※①～③の親 ①全保護者/2 ②乳幼児～小中学生/16 ③小学校高学年～高校生/1 ④未来の親になる中高生/2	20	・プログラムに使える資料集/27 ・ふりかえりシート集/6 ・アイズプレイクのいる/6 ・アクティビティのいる/15	・PTA研修会等 ・子育てサロン ・親同士の交流の場 ・家庭教育学級(学校・公民館等) ・乳幼児検診/就学時検診 ・子育て学習会/子育て相談会	-				
						H23				中高生の親	7	・資料(思春期について他)/6 ・進行マニュアル/5 ・親プロQ&A/1

「○」:有、「-」:無

(表の続き)

自治体名	学習プログラム名	内容	作成年度	プログラム		主な資料/ページ数	主な活用場所	実施報告	実施報告内容
				対象/テーマ数	合計				
5 埼玉県	平成19年度「親の学習」プログラム集	それぞれの対象の発達段階に応じたプログラム	H19	①中学生・高校生/5 ②すべての保護者/5 ※③～⑤をもつ保護者 ③乳幼児/5、④小学生/5 ⑤中高生/5	25	・手引き/70 ・アイスブレイク集/5	・学校など ・保健センター/公民館/幼稚園 など	-	
	「親の学習」プログラム集増補版			H24	①中学生・高校生/1 ②すべての保護者/7 ※③～⑤をもつ保護者 ③乳幼児/1、④小学生/3 ⑤中高生/2、	14			
6 富山県	親を学び伝える学習プログラム	身近なエピソードを題材に、子育ての悩みや問題点など。	H18-H19	①親となるための準備期/5 ※②～④の親 ②乳幼児/5、③学童期/5 ④思春期/5	20	・手引き/19	・市町村での子育て事業 ・子育てサークル ・PTAの学習会 ・就学時検診時の家庭教育講座 など	○	H24年度 親子講座 活動状況
				①親となるための準備期/2 ※②～⑤の親 ②乳幼児/2、③学童期/2 ④思春期/2、 ⑤全ての保護者/1	9	・手引き/9			
	①祖父母・シニア/4、②地域/2 ※③④の親 ③乳児期・学童/2 ④思春期/3	11	・手引き/8、親学びノート(小・中学生編)(H24作成)/10 ・親学びノート改訂版(H25作成)/10 ※「親学びノート」親学びプログラムの活用のためのガイド ・エピソード紙芝居/24						
	※①～④の親 ①乳幼児期/5 ②小学校低学年/6※ ※父親用・母親用をそれぞれ1つのプログラムとしてカウント ③小学校高学年/5、④中学生/5 ⑤将来親になる中・高生/5	26	・進め方(指導案)/26 ・振り返り用紙/1 ・子供の成長に関する参考資料/3 ・アイスブレイク/2						
7 山梨県	やまなし「親」学習プログラム	親が子育ての不安や悩みを解消し、自信をもって子に向き合うことができるための学習プログラム。	H19	乳児期をもつ親	20	・進行業/47 ・資料/40 ・アイスブレイク、アクティビティ/6、実施後アンケート/1	・学校・幼稚園・こども園・保育所の家庭教育学級 ・乳幼児学級、乳幼児健診 ・企業内家庭教育研修 ・子育て講座(公民館や保健センター等)、PTA研修会、保護者学級懇談会、入学・入園説明会、就学時検診	-	
				小学校低学年～中学生をもつ親	20	・進行業/20 ・資料/54 ・アイスブレイク、アクティビティ/6、実施後アンケート/1			
8 岐阜県	「みんなで子育てⅡ」乳児期編 「みんなで子育てⅢ」小・中学校編	乳幼児を持つ保護者の主体的な学びを目的としたプログラム。 小中学生を持つ保護者の主体的な学びを目的としたプログラム。	H25	※①～③、⑤の親 ①幼児期/8、②学童期/9 ③思春期/7、④(追加)未来の子育て世代(中高大学生)/4 ⑤(追加)乳幼児版/4 ⑥(追加)シニア版/4	36	・展開例/36 各プログラム1ページずつ ・アイスブレイク集/3	・幼稚園、保育園、小学校、中学校などの保護者会、懇談会、家庭教育学級、子育て講座 ・公民館、児童館、子育て支援センター、地域の子育てサロン、子育てサークルなどが行う親子ふれあい活動、子育て講座、子育て学習会など	-	
9 静岡県	家庭教育ワークショップ「つながるシート」	生活習慣、親の心構え、規範意識等	H25-H26						

「○」:有、「-」:無

(表の続き)

自治体名	学習プログラム名	内容	作成年度	プログラム		主な資料/ページ数	主な活用場所	実施報告	実施報告内容
				対象/テーマ数	合計				
10 愛知県	あいっこ「親の学び」学習プログラム	①乳幼児期 ②幼児期 ③児童期 ④思春期、それぞれのワークシートと指導計画案	H22	※①～③の親 ①乳幼児期(0歳～2歳)/5 ②児童期(小学校低学年・中学年)/5 ③思春期(小学校高学年・中学生)/5	15	プログラムの進め方/20 振り返りシート/1	地域の子育てサークル 保育園・幼稚園の親の会 PTA研修会 など	○	H26年度家庭教育研修会の様子 H27年度職場内研修会の様子
11 三重県	『子育てはっぴいっばいママワーク～乳幼児をもつ子育て中のあなたへ～』	乳幼児をもつ親を対象に子育てのテーマについて話し合うワークショップ	H26	①入門編/4 ※②～③の親 ②乳児編/7 ③幼児編/8	19	進行例/2 子育てワークショップ/12	保育園・幼稚園・子育て支援センター・保健センター・子育てサークルなど・親を対象とした子育ての研修会や研修講座など・センター等の利用者への支援ツールとして	-	
12 滋賀県	家庭教育学習資料～語り合いを通して親子	子どもの年代に応じた「家庭教育学習資料」	H26 初H15	①幼稚園用/7 ②小学校用/9 ③中学校用/8	24	活用事例/24 「すすめるポイント」/3 計画・準備・確認事項 当日の進め方 グループ作りの例 アイスブレーキングの例	PTA会合 PTA子育て学習講座 など	-	
13 大阪府	「親」を学ぶ「親」をつたえる	対話や交流を通して、親と子の関係や子育てについて学びあうための参加体験型学習教材。	H16	①親となる準備期(中学・高校)/6 ②子育て前期/6 ③子育て後期/6 ④子育て支援期/4 ⑤小学生向け教材/2	24	指導例(小学生向け教材用のみ)/6	各市町村での子育て支援グループ・コミュニティセンター 中学校・高校	-	
14 兵庫県	ひょうご親学習プログラム平成22年度版 ひょうご親学習プログラム 中高生版 ひょうご親プログラム	メインプログラム集、アイスブレイク集、振り返り集の3部構成	H22	①中高生向け/22 ②教員・支援者向け/16 ③親向け/38 ④絵本の活用/16 ※絵本を活用したプログラム ※プログラムに重複あり	27	展開/60 ※プログラムと展開の一体型 コラム(プログラム開発のねらい) アイスブレイク集/14 振り返りシート/7	子育て支援センター、学校など	-	
15 鳥取県	とっとり子育て親育ちプログラム 幼児・小学生版 とっとり子育て親育ちプログラム 思春期版	自分自身の振り返り・子育ての悩み・親子のコミュニケーション・しかり方ほめ方等 ・親子の関係・子供の交友・自立に向かって・男女交際・ネット社会等	H23 H25	子育て中の親 中高生向け 幼児・小学生の親/22 思春期の親/13	22 13	展開/22 アイスブレイク集/8 展開/13 資料(子育てに関するテーマ)/10	就学前健康診断時 入学説明会・PTA研修会 学級・学年の懇談会・公民館 子育て支援センター、乳幼児検診 企業内研修	○	参加者の感想(HP内の一部に掲載)
16 島根県	しまね「親学プログラム」	親としての役割や気づきを促すために活用する学習プログラム。	H24	乳幼児から中学生の親/26	26	アイスブレイク資料/12 アドハイスタイム資料/12 その他資料/2 (子どもの頃の大変は豊かな人生の基盤になります！、生活リズムの確立に向けて) ワークショップ進行マニュアル/52 ※プログラムとマニュアルの一体型	学習機会(研修・講座・懇談会など) 保育園・幼稚園 小・中学校 公民館など社会養育施設 子育て支援センター等	○	活用案内(リーフレット)
17 岡山県	「親育ち応援学習プログラム」H25追加プログラム(7追加) H26追加プログラム(1追加)	子どもの年齢や発達段階に応じた子育てに関する課題に対応したプログラム	H22～ H26	①子育て準備期間中・高校生/3 ※②～④の親 ②乳幼児/7 ③学童期/10 ④思春期/4 ⑤子育て支援者(祖父母等)/3	27	すこやか子育て川柳/1 学習の進め方/20 テーマに関する資料/27 アイスブレイク集/4 アクティビティ集/2 わが家のすこやか日記/3	乳幼児健康診断 保育園・幼稚園などの懇談会 PTA研修会 子育てサロン 企業内での研修 さまざまな交流の場	○	H26年度活動報告(冊子)(6市町村)

「○」:有、「-」:無

(表の続き)

自治体名	学習プログラム名	内容	作成年度	プログラム		主な資料/ページ数	主な活用場所	実施報告	実施報告内容
				対象/テーマ数	合計				
18 広島県	「親の力」をまなびあひ学習プログラム	参加者がお互いの子育てに関する考え方や、子育てに対する不安や悩みを交流しながら、主体的に学習できるプログラム。	H18-H19	①子育て準備期/8 ②子育て前期/11③後期/6 ④子育て支援期/3 ⑤乳幼児～高校生の父親/1 ⑥小学生～高校生の親/1 ⑦子育て期の親・働く人/1 ⑧まもなく親になる人・0～3歳児の親子/1、⑨まもなく親になる人・0～3歳児の親/1	33	・学習の進め方 (構成と使い方/12、学習のすすめ方/35、アイスブレイク集/16) ・アンケート用紙/2 (参加者用、ファシリテーター用)	PTA研修会 ・学級懇談会 ・保護者会 ・入学説明会 ・学校と保護者をつなぐさまざまな「場」	○	H20-27実施状況 「親プロ」講座の様子(幼稚園、保護者懇談会など、子育てに関わる様々な「場」で実施)
19 高知県	「高知家の親の育ちを応援する学習プログラム」	これから親になる若い世代から、現在子育て中、孫育て期の祖父母世代まで、幅広い世代を対象にした「親の育ち」を応援する参加型学習プログラム。	H23	※①～③の親 ①幼児期/3 ②学童期/6 ③思春期/3 ④子育て支援期/3	15	・学習の進め方/16 ・資料/20 ・アイスブレイク/4 ・アクティビティ集/1 ・子育て応援川柳/1	・就学時健康診断 ・学校等の保護者会、PTA研修会、保育所、幼稚園、放課後子ども教室、企業内での研修 ・親・地域など交流の場 ・子育てサークルでの勉強会など	-	
20 長崎県	「ながさきファミリープログラム」	幼児期～中学校までの発達段階に応じて、しつけや生活習慣に関する親学習プログラム。	H22	※①～④の親 ①2～5歳児/11 ②小学校入学前～低学年/13 ③小学校高学年/6、④中学生/2 ※プログラムに重複あり	18	・資料/42 (ワークシート、親資料、ファシリテーター資料)	・PTA懇談会 ・公民館の家庭教育学級 ・健全育成会の子育て講座など	-	
21 熊本県	「まも」[親の学び]プログラム スタート(乳幼児期)編	乳幼児・小学生・中学生の保護者及び中高生の学びを支援する参加体験型の学習プログラム	H21	乳幼児期の子ともつ親/7	7	・展開例/30 ・アイスブレイク/5	・学年・学級懇談会や地区懇談会 ・前活動総会や各部ごとの保護者の集まり ・就学時健康診断や1日体験入学 ・PTA総会や教育講演会 ・PTA役員会やPTA研修会 ・学童保育の保護者の集まり ・子ども会の集まり	○	H23-H26 実践事例集 (学校関係、PTA関係、行政関係、社会教育関係、健康診断関係、など)
	「まも」[親の学び]プログラム ステップ(中高生期)編	「まもなく大人になる」次世代向け【自立】と【コミュニケーション】を盛り込んだ「自立を育むコミュニケーション」プログラム	H22	①小学生の親子(ステップ1)/7 ②小学生の親(ステップ2、ステップ3)/15	22	・展開例/66 ・アイスブレイク、いじめ対応手引、不登校対策資料、その他/17	ホームルームや集団宿泊研修、教科の時間等、		
	「まも」[親の学び]プログラム ステップ(中高生期)編	「まもなく大人になる」次世代向け【自立】と【コミュニケーション】を盛り込んだ「自立を育むコミュニケーション」プログラム	H24	①中高生の親子/8 ②中高生親/14	22	・展開例/66			
22 宮崎県	「みやざき家庭教育サポートプログラム」	各発達段階に関する学習プログラム	H24	中学生や高校生/11	11	・展開例/29			
23 鹿児島県	家庭教育に関する世代別学習プログラム	「子育て世代」「シニア世代」における家庭教育に関する参加型学習のワークショップ	H25	※①、②の親 ①幼児～小学校低学年/5 ②小学校上・中・高学年/5 ③将来の親世代/4 ④祖父母・シニア世代/3 ⑤地域住民/3	20	・進行表・進行マニュアル/42 ・ワークシート集/21 ・アクティビティの手法/1 ・アイスブレイキングの方法/1	家庭教育学級やPTA、公民館講座等の家庭教育に関する学習機会	-	
24 沖縄県	夢実現「親のまなびあひ」プログラム	意識やマナー等をテーマにした、子育て中の保護者が、参加者同士で話し合えるプログラム。	H26	※①～④の親 ①幼児期/4 ②小学校低学年/4③高学年/4 ④中高生/4	16	・展開例/4 ・乳幼児期 補助資料/2 ・アイスブレイク/2 ・アイスブレイク集/5 ・アンケート/2 ・資料1～3/49	・学校 ・PTA懇談会 ・子育て応援講座 ・社会教育団体 など	○	実施の様子 (小学校、教青委員会、女性連合会など、6ヶ所)
25 京都市	子供を共に育む「親支援」プログラム～ほっこり子育てひろば～	子育ての喜びや不安を共有し、仲間づくりや親子らの場につなげるワークショッププログラム。	H22	①妊娠期 ②0歳児から中学生の親	14	・プログラムの進行例 ※HP内に掲載 ・テーマに関する資料/9		-	

「○」:有、「-」:無